國學院大學学術情報リポジトリ

〔談話室〕皇帝と天子

メタデータ	言語: Japanese
	出版者:
	公開日: 2023-02-05
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 金子, 修一, Kaneko, Shuichi
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://doi.org/10.57529/0000552

旧臣

に呼

がばれて山西省の

から皇帝と天子との使い分けが生じた、と判断した。しかし、

で未央宮入りし、

ば

のか、

私は散々頭を悩ましたが、

究者にも共有され、

あ

一方で、

官僚制度が次第に発達する中で、

前漢後半期に皇帝三璽と天子三璽との

不合理であるとも思われない。それでは、

最近思い

到ったのはこの天子とは爵号ではない

文帝即位時の天子璽の存在についてはどう説明す

ħ

区別が生じた、

か、ということである。

直ちに皇帝として必要な措置を講じている。

代国から長安入りした文帝は、長安の代邸で天子璽符を受けた後に天子の法駕

漢初における高祖崩御

接の呂太后の専権のあと、

(標準的

即ち、

前漢初期

(から皇帝と天子との区別

皇帝と天子

年) たが、 その時には疑問 で勉強するようになった。 氏と記す)は、 0) 代には軍 私 西嶋氏は漢代の 五月一一日の国史学会の東洋史例会で「天子と皇帝」と題して講演したのは、 でも戦争について考える機会はしばしば 日 隊経験を持つ教師も少なくなく、昭和天皇の戦争責任を問う声もあり、 本の天皇制と比較して中国の皇帝制にも関心があった。 0) 折りに触れ のままに遣り過ごした点について最近思い附くことがあったので、 皇帝行璽・皇帝之璽・皇帝信璽、天子行璽・天子之璽・ 位 中 \dot{o} 御努力もあって、平成から令和への その て中国の皇帝制と日本の天皇制との比較に言及しており、そこで私は本郷では西嶋氏のもと 西嶋氏が早くから注目していたのが皇帝と天子との区別の問題で、私が昨 あった。一方、 私は漢字が好きで、 天皇の交替は恙無く終了した。 中国古代史の大家である西嶋定生先生 天子信璽の そこから中国に興味を持 戦後の昭和二 その観点を引き継い 以下に簡単に述べてみたい。 御 璽 の制度に注目 しかし、 一四年 (一九四九) 生まれ の高校 だものである。 (以下には西嶋 年 つようになっ (三) 九

金子修 という見解は他 は存在したので

認めた次第である

本欄にはややそぐわない内容かもしれない

が、

最近の自分の講演に関連して思いついた題材であるので、

筀

は周 か。 中華の成立唐代まで』岩波新書、二〇一九年、 ここから渡辺信一郎氏は、「高祖は、 代の諸侯に相当する王、 での君主号の王は二十等爵の最高位である列侯の上の称号となった。これが漢初からある諸侯王であり、諸侯王とは周 代の 公・ わ 高帝紀下・高祖一二年 れ た。 ・子・男の五等爵が後世 方、 諸侯としての王という意味の呼称である。 周代の王は天子と呼ばれ 前一 始皇帝が排除した天子号を正式に復活させた」、と指摘している(『中国 九五)三月の高祖の詔に、 の王朝 八三頁)。 ていたが、 の爵位の基本となったが、 秦の始皇帝が最高君主の それでは、 「吾立為天子、 周代に王と併称された天子はどうなった 例外的に漢代は列侯以下公士に至る二十 帝有天下、 称号を皇帝と定めると、 十二年于今矣」とあり、 の歴史①

すると、 ち漢代の王は爵号であり、 巻一の冒 子三璽が整備されると単独の天子璽は姿を消したのではなかろうか。文帝の天子璽符についてはこのように考えてみた 応する形で天子三璽が整えられる前に、 **墾符の符とは、** である文帝が宮中入りする資格を得るために在京の高官から文帝に渡された、 後漢初期の政治思想や制度に関わる議論を纏めた書物に『白虎通』 天子が爵号であれば天子璽 「頭に「天子者爵称也」とあり、漢代には天子は爵号である、という解釈の行われていたことが判る。 ない 天子璽が本物であることを証拠立てる割符の銅虎符であったであろう。こう解釈すれ から、「天子璽」は通常は宮中に保管されていたであろう。それが文帝即位時に持ち出され、 外臣の「漢委奴国王」 (璽は漢代の最高位の判子の名称)があっても不思議ではない。しかし、 天子璽という単独の璽が存在していたと説明することができよう。 一印は例外的であるが、 があるが、 漢代の王号の璽印はいろいろと伝えられている。 と想定することができるのではないか。 清の陳立が註釈を附けた ば、 皇帝三璽と対 百白 諸侯王即 天子は天 天 証

(中国古代史・東アジア世界論